

東京の生協・協同組合学びの講座 第Ⅱ期 開催報告 vol.3

主催:東京都生活協同組合連合会 協力:(公財)生協総合研究所

第4講・第5講を一泊二日で開催しました

2024年10月15日(火)～10月16日(水)に、「東京の生協・協同組合学びの講座」第Ⅱ期の第4講をJA東京中央本店とその近隣の圃場で、第5講を丸紅多摩センター研修所において、一泊二日で開催し、都内生協・協同組合団体から10組織23名の皆さんが参加しました。

第4講 東京の協同組合を知る 「都市農業と東京のJAの現状」

初日は、JA東京中央会とJA東京中央の連携による講義と圃場見学を組み合わせたプログラムで、農業協同組合と東京の都市農業の現状について学びました。

はじめに、JA東京中央会総合企画部総合企画課係長の港孔太さんと同課の齋藤陽美さんから「JA都市型農業の課題と今後に向けて—JAグループと東京農業の概況—」と題してお話いただき、続いてJA東京中央組織広報室室長代理の吉田知弘さんから、青壮年部の活動の様子を動画を使って紹介いただいた後、近隣の圃場をご案内いただきました。

野菜生産者の田中光男さん、花卉生産者の高橋成司さん、いちご生産者の野島菊美さんのそれぞれの圃場を訪問してお話を聞き、意見交流をおこないました。

最後に、圃場見学を経ての質疑応答と感想交流を行い、初日のプログラムを終えました。

参加者からは「都心の住宅街の中で新鮮な野菜や果物やお花を作られている場を目の当たりにし、東京農業の意義の大きさが感じられた体験となった」などの感想が寄せられました。



港さん

齋藤さん

吉田さん



田中さん 「直売を通じて、生産者と消費者の関係から、人と人との深い関わりが変わっていきます」



高橋さん 「全国人口の15%にあたる東京の人に都市農業の価値を知らせたい」



野島さん 「JAさんの手厚い営農支援は頼りになっています」



初日夜に開催された情報交換会

各自で宿泊先の研修所に移動の後、情報交換会を立食形式でおこないました。宿泊研修も2回目のため打ち解けて、翌日の講師も合流して、和やかな交流の場となりました。

第5講 今日的な課題から学ぶ「気候変動と協同組合」

2日目は、法政大学名誉教授、東京都生協連理事の田中充さんを講師に、「気候変動への地域からの対応を学ぶ～脱炭素と適応の視点」と題して、気候変動や地球温暖化の要因と将来予測の結果をもとに、今後の気候変動対策である「緩和策」と「適応策」について、東京の協同組合として考えるべき取り組みについて、ヒントをお話いただきました。



田中さん



グループディスカッションの様子

グループディスカッションでは、①昨今の気候変動の影響で大きかったことは何か？特にみなさんの組織に対する大きな影響は何か？そのことに対して、みなさんの組織ではどのような対応・対策をしているか？②それぞれの課題に対して、各組織が連携・協力して効果的にとりくめることがないか？をテーマに意見交流し、グループ発表をおこないました。



各グループから発表

最後に田中さんから、自組織が気候変動で影響を受ける局面と対策をリストにして、その対策が短・中・長期のいずれにあたるのか、組織内だけか関係者も巻き込んで対応するのか、整理してみてほしいとお話をいただきました。

参加者からは、「気候変動が今後の生活に及ぼす影響を改めて学び、自組織で対策できることを真剣に考えていく必要があることを感じた」などの感想が寄せられました。

次回、第6講「東京の協同組合から考える戦争と平和」は2025年1月24日(金)12:00～16:00の日程で、東京大空襲・戦災資料センターと近隣の会議室を会場に開催します。

プログラム

10月15日(火)JA東京中央本店と近隣圃場

13:00	開会
13:05	第4講
13:45	休憩
13:50	圃場見学
14:50	再集合、休憩
15:00	質疑応答・感想交流
15:30	移動準備、各自移動
17:30	丸紅多摩研修センター研修所着
18:00	夕食・情報交換会

≪参加者への事前課題≫

- (1)『JA全青協創立60周年記念誌』を読んでくる。都市農業のイメージを考えてくる。
- (2)『気候変動と暮らしー気候変動対策の視点』を読んでくる。

10月16日(水)丸紅多摩センター研修所

8:30	第5講
9:40	休憩
9:55	グループディスカッション
10:55	休憩
11:05	グループ発表
11:40	講評
11:55	次回案内等
12:00	閉会